

著者略歴

■編著者

小林宗之（こばやし・むねゆき）

1984年生。立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫制博士課程。メディア史。論文に、「アジア太平洋戦争期における号外発行と新聞界」（『新聞学』vol.22, 2007年）、「戦争と号外（1）——号外の誕生から日露戦争まで」（『Core Ethics』vol.8, 2012年）、「終戦報道に関する一考察——1945年8月15日付の新聞を中心に」（『メディア学』vol.27, 2012年）、「新聞報道から見る高齢者所在不明問題」（小辻寿規との共著『生存学』vol.4, 2011年）などがある。

谷村ひとみ（たにむら・ひとみ）

1960年生。立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫性博士課程。社会学・発達心理学。共著に、『TEMでわかる人生の径路——質的研究の新展開』（誠信書房, 2012年）。論文に、「『ふつうの結婚』を目指させた親の性別役割意識——1980年代に結婚を経験した女性たちの語りから」（『立命館人間科学研究』vol.17, 2008年）などがある。

■論文執筆者

西沢いつみ（にしざわ・いつみ）

1957年生。立命館大学先端総合学術研究科一貫博士課程・京都府医師会看護専門学校非常勤講師。生物学・生命倫理学・医療運動史。著書に、『生物と生命倫理の基本ノート』（金芳堂, 2008年）。論文に、「地域医療における住民組織の役割の歴史的検討——白峯診療所および堀川病院の事例を中心に」（『Core Ethics』vol.7, 2011年）、「西陣地域における賃金労働者の住民運動」（天田城介・村上潔・山本崇記編『差異の繋ぎ点——現代の差別を読み解く』ハーベスト社, 2011年）などがある。

渋谷光美（しぶや・てるみ）

立命館大学大学院先端総合学術研究科研究生・羽衣国際大学人間生活学部専任講師。介護福祉学。論文に、「介護の源流としての寮母と家庭奉仕員に関する、養老事業関係者の動向を通じた検討」（『Core Ethics』vol.8, 2012年）などがある。

牧昌子（まき・まさこ）

1945年生。立命館大学大学院先端総合学術研究科研究生・京都市国民健康保険運営協議会委員。福祉行財政論・所得税制研究。著書に、『老年者控除廃止と医療保険制度改革——国保料（税）「旧ただし書き方式」の検証』（文理閣，2012年）。論文に，「国保料（税）の所得割額の算定方式における『旧ただし書き方式』の検証——『税と社会保障一体改革』の見えにくい負担の公平性」（『賃金と社会保障』1556，2012年）などがある。

小辻寿規（こつじ・ひさのり）

1985年生。立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫性博士課程・日本学術振興会特別研究員DC2。社会学・社会福祉学。論文に，「高齢者社会的孤立問題の分析視座」（『Core Ethics』vol.7，2011年），「新聞報道から見る高齢者所在不明問題」（小林宗之との共著『生存学』vol.4，2011年）などがある。

北村健太郎（きたむら・けんたろう）

1976年生。立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員。社会学。編著に，天田城介・北村健太郎・堀田義太郎編『老いを治める——老いをめぐる政策と歴史』（生活書院，2011年）。分担執筆に，堤莊祐編『実践から学ぶ子どもと家庭の福祉』（保育出版社，2008年→改訂第4版2012年）。論文に，「血友病患者本人による社会と結び付く活動の生成——Young Hemophiliac Club 結成を中心に」（天田城介・村上潔・山本崇記編『差異の繋争点——現代の差別を読み解く』ハーベスト社，2012年）などがある。

天田城介（あまだ・じょうすけ）

1972年生。立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授。社会学。著書に，『〈老い衰えゆくこと〉の社会学』（多賀出版，2003年→増補改訂版，2010年），『老い衰えゆく自己の／と自由——高齢者ケアの社会学的実践論・当事者論』（ハーベスト社，2004年→第2版2013年），『〈老い衰えゆくこと〉の発見』（角川学芸出版，2011年）。編著に，天田城介・北村健太郎・堀田義太郎編『老いを治める——老いをめぐる政策と歴史』（生活書院，2011年），天田城介・村上潔・山本崇記編『差異の繋争点——現代の差別を読み解く』（ハーベスト社，2011年），天田城介・角崎洋平・櫻井悟史編『体制の歴史』（洛北出版，2013年）ほか多数。